

令和8年度 第1回 草津市読書のまち推進計画審議会 議事録

■日時：

令和8年7月16日(木) 午後2時～3時53分

■場所：

草津市役所 8階 大会議室

■出席委員

岸本委員、細谷委員、木村委員、西村委員、小林委員、江藤委員、涌井委員、柴田委員、西川委員、茶木委員、田邊委員、田中委員、黒川委員（13人）

■欠席委員

明山委員、佐々木委員（2人）

■事務局：

草津市教育委員会 藤田教育長、奥谷教育部理事（生涯学習・スポーツ推進・図書館担当）、高岡教育部長、西田教育部理事（学校教育担当）、小寺総括副部長、二井教育部副部長（図書館担当）兼図書館長

生涯学習課 山田課長、中村係長、武村主幹、平塚主任

図書館 大西副館長（南草津図書館）

学校教育課 寺西係長、林専門員（13人）

■傍聴者：

なし

1 開会

【事務局】

進行は生涯学習課・山田課長

2 教育長挨拶

【藤田教育長】

皆様、本日はたいへんお忙しいところ、今年度初めての草津市読書のまち推進計画審議会に御出席賜りまして誠にありがとうございます。また今回の審議会委員への御就任につきましても、快くお引き受けをいただきまして厚く御礼を申し上げます。

さて、市内の小中学校は、明日終業式を迎えることとなりまして、こどもたちは待ちに待った夏休みということでございます。夏休みは、普段なかなかできないような体験ができる、とても良いチャンスではないかなと思っておりますけれども、ここ最近の気候変動の影響で、非常に高い外気温となっております、どちらかという、屋外での活動が厳しい状況になってきたのかなと思っております。そんなときこそ、読書じゃないかなと改めて思っているところでございまして、こどもたちには読書を通して、新たな世界や多様な価値観に触れていただく機会になればと願っているとこ

ろでございます。

また、今年度から市内の小学校につきましては、午前5時間制を実施いたしました
が、午後に学びタイムという20分間のひとコマがございます。その20分間を読書
に充てている学校も増えている状況でございます。読書好きの割合が国語の学力と
の相関関係があると言われておりますのと、他の教科でも、問題を解くのにやはり問
題文を読み込む力というのが必要になって参りますので、このようなことから、近年
読書の充実に取り組んでいる学校も増えてきているところでございます。

そして先日には、東京大学の酒井先生という方、この方には、以前草津市立図書館
で講演会していただきましたけれども、脳科学者の第一人者でございます。その先
生の研究によりますと、電子書籍と紙の本をそれぞれ読んだあと、脳の活動がどうな
ったかということを調べられたそうですけれども、デジタルブックより紙の書籍の方
が、内容の自然な理解が進むことが明らかになったということが雑誌にも載ってござ
いました。

また一方で、人生100年時代ということでございまして、読書は先程のように脳
を活性化させること、またこれからの変化の激しい社会の中で、おそらく新たな学び
や知識を得るということが必要になってくるかと思えます。そういう意味では、豊か
な人生を送るうえでは欠かすことのできない重要な役割を読書が果たしていくものと
考えてございます。

こういったことから、本市におきましても、昨年の7月に、全世代、全市域で、読
書活動を推進していこうということで「草津市読書のまち推進計画」を策定し、現在
さまざまな取組を行っているところでございます。

本日の審議会では、これまでの計画の進捗と合わせまして、今後の事業展開に向け
ての御審議を賜りたいと考えています。どうか委員の皆様におかれましては、それぞ
れのお立場で培われました豊かな御経験、御見識を以って、ぜひ忌憚のない御意見を
賜りまして、学びと出会い、心豊かな人生を育む読書のまち草津の実現に向け、進め
て参りたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。開会にあたりま
しての御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

3 自己紹介 資料1

【事務局】

委員15人中13人に出席いただいたことから、草津市附属機関運営規則第6条第1
項の規定である「附属機関の会議は、委員の半数以上がなければ開くことができな
い」の開催要件を充足しているため本会議が成立していることを報告した。

本会議は公開を原則としていることを報告、また傍聴人はなし。

会議資料の確認

各委員から自己紹介

欠席委員紹介：（草津市校長会(小学校)：明山委員）

（草津市公私立幼稚園運営等協議会：佐々木委員）

事務局自己紹介

4 会長、副会長の選出(互選)について

【事務局】

Ｊ委員からの提案により、会長に岸本委員、副会長に細谷委員を互選にて選出。

5 会長挨拶

【岸本会長】

岸本でございます。前期に引き続いて、計画を立てたあとの責任を持ちなさいということで、どうぞよろしくお願いいたします。

読書ということで、先程藤田教育長の方からデジタルがなかなか記憶に残らないというお話を聞きながらちょっと思い出したんですけれどもね、私の友人で信楽で焼き物をやっているアメリカ人がおります。

彼は自分で家を建てているんですけど、県立図書館にいたときによく来て、いろいろと調べている。彼は「ぼくは図書館があればどこでも生きていける」というんです。それはアメリカの大学で知識を身に付けたのではなくて、調べる力を身に付けたんだというんです。調べる力を身に付けたから、図書館があれば、調べることができるから、どこでも生きていける。

彼には息子さんがいるんですけど、息子さんが中学になったころから図書館に来て、図書館にあるペンギンクラシックスというシリーズなんですけど、日本でいう岩波文庫みたいなもの、それをどんどん借りていくんです。どうしたって言ったら、息子に言うんです。中学校のころから息子にペンギンクラシックスをどんどん読ませています。それは、高校までは日本にいたけれど、大学はアメリカの大学に行きたいっていいから、アメリカの大学で勉強するんだったら、古典をきちんと読んでおかないと、とてもじゃないけどついていけないと彼が言うんです。息子さんは中学と高校で、ペンギンクラシックスをほとんど読んだんです。今もう大学を卒業してアメリカで活躍しているんです。

それで今思い出したのは、今はデジタルでいろんなことを調べる。調べることができたら、どこでもきちんと生きていける力が付く。それは、今スマホでデジタルで見ればいろいろなことが分かるけれども、そうしたものを生かしていく力があるかどうか。彼がそうしたものを生かしていけるから、先程息子さんに大学行くんだったら、ということでペンギンクラシックスを読ませる。そうした読書の蓄積がベースにあるんです。

たくさんの本を読んでいて、それがベースにあって、いろんなことを調べて、それを自分の生きていく中で生かしていくことができるんです。単純にデジタルで、スマホで見て、あ、いい答えがあった。その場で済むんですよ。その場で済むんですけど、それはその人の生きていく上での力にはなっていないと思うんです。

さっきの記憶に残らないとおっしゃるのと一緒です。その場その場では解決できるけれど、それが結果として、その人が生きていく上での力になって蓄積していくかどうかというと、決してそうはならないだろうと思うんです。調べたことがその人の生きていく力になってくるというためにはベースにいろんなものをきちんと読んできた、読書をしてきた、そうして重ねてきた力の蓄積が、そのことがあってはじめてその人が生きていく上での力になっていくんだと。で、私は読書というのはそういった意味では非常に人が生きていく上での大切な力を養っていくんだなと思っております。

ぜひ、どうぞ御審議のほどよろしくお願いいたしますと思っております。

【細谷副会長】

闊達な議論ができますように、岸本会長をしっかりサポートできればいいなと思っております。

私事にはなりますが、こどもが二人いまして、6歳と7か月の男の子が二人いるんですが、最近上の子がYouTube動画を覚えてしまいまして、なかなか読書との距離が遠くなってしまった。そういうこともあるんですが、やっぱり本の魅力というのはまだまだすごくて、ちゃんと読ませると聞いてくれるので、読書本来の魅力ということを考えながらですね、自治体の推進計画を実りのあるものにできればいいなと思っています。

委員の皆様からの御意見を伺いながら、私も勉強させていただきますので、よろしくお願いいたします。

6 議事

1) 各種事業の進捗状況および今後の事業展開について

資料2

当日追加資料

【事務局】

(資料2および当日追加資料の説明)

【岸本会長】

ありがとうございました。ただいまの概要説明ならびに草津市図書館協議会での審議内容などにつきまして、皆様から御質問、御意見などございましたら頂戴いたしたいと思います。如何でしょうか。挙手のうえ発言をお願いいたします。

では順番に、特にこの件でなくても、いわゆる読書についてということでも結構ですが、お一人ずつ御発言いただきたいと思いますので、ちょっと順番に回していきたいと思います。では、C委員からよろしくお願いいたします。

【C委員】

私は小中学生および高校生における読書活動推進というところで、特に今年度学校司書さんに居ていただける時間を増やしていただいたこと、たいへんありがたくて、早速もう効果が出ているなというふうに思っております。

これは先日学校司書さんに確かめたところですが、前年度に比べて学校図書館の貸し出し冊数が増えているという報告を受けております。あるいはもう、今年度早いうちから課題図書のコナーを設置していただいて、すでに夏休み前にそういった本の貸し出しがすべて出てしまったというような、かなりの人気であるということ。

それから、たくさん居ていただいているので、うちの司書教諭とタイアップして、いろんなコナー設置を、新堂中学内のいろんなところをお願いをしまして、昇降口であったり、各フロアであったり、校長室前にもコナーを設置していますので、移動教室で中学生はいろんなところを校舎内動くわけですが、そういったところで触れてもらう機会が増えたなと喜んでいます。

それというのも学校司書さんが、来ていただく時間が増えたことのおかげだなというふうに思っています。ありがとうございます。

【岸本会長】

実際、学校司書が入ることによってずいぶんと学校の図書館が変わったというふう
に実感されていると思います。ぜひまた配置の方の充実をお願いします。どうもあり
がとうございました。続きまして、D委員。

【D委員】

就学前といいますが、こども園の立場から計画をもう一度見せていただきまして、
その乳幼児健診での啓発をされたという方、経験した方がこども園に入園され、生活
をされているんだなという読書にまつわるそういった流れを改めて確認ができてあり
がたいことだなと思っております。

こどもは絵本を読んでもらうことが好きですけども、自分で読んでいくという習
慣に成長とともにつながっていったら、この計画が全体像を結ぶのかなと思いますと、
小学校へ行くまでは、就学前では文字文化は大人が与えるものでこどもが習得しない
といけないものではないですね。ですので、特にもうすぐ小学校に行く5歳のこども
に対して、自分の成長に伴い、学校に行ったら字が読めるようになるんだよ、習える
んだよというところのあたりから、自分で本が読みたいなというふうなこども自身の
期待ですとか、成長に対する胸がふくらむといいますか、そのあたり、それをふくら
ませることが就学前の仕事だなというふうに改めて感じたりさせていただいておりま
す。

ちょっとこれはこどもの話とは違うんですが、印刷物を保護者の方が読まれなくな
っているような気がします。たとえば、園から渡すおたよりとかほぼほぼアプリで配
信します。うちの園はかなり遅れていて去年あたりからそうだったんですが、それま
ではプリントで配っていて、今はスマホの画面で見てくださるということを保護者自
身が御希望されているんですね。見学に来られるときに、手紙ですかアプリですかど
っちですかという結構シビアに気にされているということ。大人自身がそういう流れ
に対するなじみ方がこれまでと違ってきているようなことも感じていたりしています
ので、このままでよいのか、何かできることがあるのかということで深く考えたりし
ているところです。

あとは数字には出ない部分ではありますが、保育園のこどもは家に帰るのが18時
半とか19時になってしまいます。絵本を読む時間って生活の中でどこだろうと思う
と、やはり園にいる時間がメインになってくるのかなと思われまので、やはり読む
ものやおはなしに親しむ時間や機会をさらに園の中で充実させたいと思いました。数
字には出てこない部分ではあるんですけども、そのあたりを底支えといいますか、
しっかりと指導者の方で頑張っていきたいと思います。

【岸本会長】

ありがとうございます。多分就学前といういろんな部局が連携しながらこどもた
ちと関わっていくということが大切だと思うんですね。そのあたりまた横のつながり
も充実させていただきたいと思います。続きまして、E委員。

【E委員】

前回、審議会に出席させていただいたときに、地域における読書環境という話合いがされて、先程、自己紹介でH委員もおっしゃっていましたが、なかなか高齢者が図書館に行く手段がないという話があって、その中でまちづくりセンターの方にサテライトをつくっていただけることになりまして、私が老上西学区に住んでおりますので、早速「サテライト第1号」ということで置いていただいて、盛大に式典をしていただいて私も利用させてもらっているんですけども、図書館ですと、人気の本が予約しないと入らないのが、すごい新しいままで入ったりしています。人気の本が読めるというのが、私はとてもこんなことあるんだという、図書館で予約したら2か月くらい待たないといけなかったんだけどというところがすごい。ポイントを絞ったものを置いていただいて、みるものはすごく喜んで使わせていただいております。

それとまあ、今ちょっと久しぶりにきて、そのことを思い出したんですけども、そのサテライト図書館が住民のすべての人に行き渡っているのかというと、ちょっとなかなかそれは老上西の方でまだできてないんじゃないかなということをやっと思っています。置いてあるだけではなかなか手に取れない。こういうことがありますよとか、こういう本がありますよとアピールするということはまちづくりセンターの方で、それがちょっと、これから。せっかく置いていただいているので、皆さんにこのあとで、まちづくりセンターにそういうサークル活動とかに来られたときにちょっと寄ってみて、手にとってくださいということを、少しこれから私もまちづくり協議会の理事としては、ちょっと足りなかったのかなと、反省も含めて思わせていただきました。以上です。ありがとうございます。

【岸本会長】

これが、全館行っていきますので、そこで全部の学区にきちんと本が行き届く体制ということは大事だと思うんですけども、喜んでいただけたということは非常にありがたいということで。続きまして、F委員。

【F委員】

はい。私、E委員のお話を伺って、私もそういえば老上西のサテライトで「成瀬の本」があって、え、これあるやんと思って、伺ってました。

私がしたかった質問といいますか、伺いたかったことは、資料2の一番裏、計画44ページの図書ボランティアの育成支援についてです。26人お受けになったうち10人が、当初の目的に沿った動きをしてくださったということだったんですけども、残りの16人、今後のために具体的に地域でイメージできるような講座を行っていくという、その対策を講座内で行っていくというイメージが書かれているんですけども、ここを伺った限りだと、意欲も高い受講生が集まっていて、かつ内容もよかったということが書いてあるので、もうすでにされているかもしれないんですけども、読み聞かせ先の進路ではないですけども、私読み聞かせボランティアをしたいと思ったことがありまして、でも平日の朝8時すぎに学校に行かねば、なかなかそうした機会に恵まれないっていうこともあったので、読み聞かせの場所の、もしかしたら多様性があれば、読み聞かせをしたい人が多少増やせるのではないかなと勝手に思っていたりですとか、あとは26人集まっておられて、そこから次の動きをしてくださった方が10人ということなのであれば、例えばこれ、52人集まっていたら10

人進んでおられるという、ただの数字なので、ひょっとしたら集まってくださる母数を増やすっていうところも次の一手であってもいいのかもしれないなと思いました。なんか内容がいいのでもっとここも周りに伝えられたり、必要やって思っておられる方に伝わったらいいなと思いました。

【二井副部長兼図書館長】

ありがとうございます。今おっしゃっていただいたとおり受講した人数は26人で、活動は10人なんですが、ここの指標をするときに受けた人だけの数字ではなく実際に実働を増やしていこうという高い目標をあげたものですから、今ちょっとこのような結果になっているんですけども、まずここで具体的にイメージできる講座を行っていくというのを先にE委員からも出ましたサテライトで活動できる人を増やしたいなということで、学区ごとで交流会をしたりしながら、今年度は発表会、講義があって、実演の会が1回、2回とあるんですけども、そのあとの発表会を、もし、うちでやってくださいというまちづくりセンターがあれば、といいながらこっちを見ているんですけども、そこで発表会を地域の人にやってもらって、そこで活動につなげたいなと思っています。

また朝の読書ボランティアとかも、午前5時間制で小学校ではなくなっておりますが、今行っているのがイオンモール、それからキラリエの横のフレンドマート草津大路店に行っていたりしていますので、またサテライトも含め、会館などマッチングの場所も増やしていきながら実働も増やしていくというのと、昨年度の16人に関しては、今度8月に交流会を全体で行いまして、もう一歩勇気が出ない、という方は経験者の話を聞いたり、私たち司書が再度デビュー前に絵本の読み聞かせを見たりというようなそういう感じで活動、実働数を増やしていきたいなと考えています。

【岸本会長】

ありがとうございました。活躍する場所をいろんな形でつくるということを、多分みんな一生懸命やりたい人が来ていると思うんで、それを生かしていく場をどうやってつくっていくかというのが課題になっていると思います。続きまして、G委員。

【G委員】

はい。各種事業の進捗状況というところで思ったのは図書館機能の充実というところなのですが、令和7年度の課題で、貸出利用が減少した20代から30代を対象とした読書活動への接続が必要であるという課題と、実施計画として20代から30代の読書活動を支援する企画ってどんな企画がいいのだろうねというところ、若い世代の方にどういった企画を考えているのかなと思ったのが一点あったのと、ここの利用者アンケートの調査報告書の中でいくつか自由記載の意見というのが出ていて、この自由記載って何が書かれていたのだろうというのが、結構予約リクエストサービスとか運営とか自由記載欄の意見はこんなことがあったと書かれている、どんなことが書かれていてどんな厳しい意見だったのだろうとか、もうちょっとそういうところが、やっぱり自由記載に書いてくださっている部分が運営する上で一番図書館にとって大切なところ、うちのセンターもそうなのですが、自由記載で書かれている部分が一番大切なニーズかなあと思っておりますので、なんかそういったところがどうだったんだろうかというところを書いていただいていたら分かりやすかったなあと思っております。

【二井副部長兼図書館長】

ありがとうございます。まず令和6年度の実利用者数の2万2931人という実績値がありまして、令和7年度の実績値、2万2709人との差が222人になります。。パーセンテージとしては約1%減です。利用統計を確認しましたところ、20代、30代の人数が減っているかなという感じがありました。1%減の原因までは分析できておりません。

次に、20代から30代の読書活動を支援する企画についてのお尋ねですが、現在、関西みらい銀行さんとの連携でマネー講座を考えているところでございます。

それから、自由記述の内容についてのお尋ねですが、アンケートの最後に入力する欄がありまして、G委員がおっしゃっていただいたように、OPACの利用の仕方や検索システム、予約のことなど、図書館の機能的な部分の意見をたくさんいただいております。それを項目ごとにまとめて、一つひとつ回答を付して、ホームページに公開したり、館内に掲示したりする予定です。図書館としてどのように応えていくかということは今まとめているところです。

図書館に屋外読書コーナーがございますが、過去のアンケートで、読書スペースが少ないという意見をいただきました。検討する中で、館内に読書スペースをつくる場所がないというので、令和5年度の開館40周年のときに、屋外読書スペースを予算化してつくらせていただきました。皆様からのアンケート一つひとつの意見に対しては、すぐに対応できるものから、十分に検討が必要なもので様々ですが、図書館機能の充実を図っていきたいと考えております。

【岸本会長】

ありがとうございます。続きまして、H委員。

【H委員】

一つお聞きしたいんですけれども、3つのまちづくりセンターに図書館のサテライト機能を開設したということなんですけれども、これはどういう経緯で新しく開設されたんですか。地域から要望があったのか、教育委員会からお願いしたのか、それをお聞きしたいんですけれども。何故かという、来々、矢倉学区に新しいまちづくりセンターができるんですが、そういう機会に図書館のサテライト機能をつくるチャンスかと思うんですが、そういうのは地域の方から要望するのか、教育委員会からなのか。それをお聞きしたいんですけれども。

それともう一つ。前の任期のときの会議に出席させてもらいましたが、老人クラブ、社会福祉協議会、まちづくり協議会、私の周りの人に、こういう会議に出席して、草津市が読書のまちっていうのを推進していると報告したところ、ほとんどの人が、へえ～という答えが返ってきて。草津市がそういうことをしているのかという感じで、90%くらいの方がほとんど知らない。うちの学区で、私の周りで。そういう状況が本当なのか、うそなのか。うちだけなのか、他所の学区はもっと違うのか聞きたいんですけれども。

全国的に読書離れが進んでいるがその対策は非常に難しい、というようなことが列挙されている中、この文章を見ているとなんか希望的なことが書かれていて、未来は明るいと感ぜられるが実際はどうなのか。ちょっとお聞きしたいんですけれども。

【山田課長】

図書館のサテライト機能では、ブックトラックを置かせていただき、図書館の蔵書を設置させていただいているということ、まずは3施設、3つのまちづくりセンターに置かせていただいているんですけども、まず、昨年度置かせていただいたのは、草津市立図書館(本館)と草津市立南草津図書館(南館)の、それぞれの図書館から遠いところから順番に置かせていただきました。これが3か所に置かせていただいた理由です。今後は、まちづくりセンターによっては建て替えなどいろいろな条件もございますことから、そういった調整などを含め置かせていただいているというものでございます。

あともう一点、読書のまちの取組を知らないというか、お声をいただいているところはあると思うんですけども、私どももさまざまな取組をさせていただいている中で、まだまだ周知が足りないところはあると思うので、さらに頑張っていかなければならないと思います。先程おっしゃっていただきました、新・矢倉まちづくりセンターへのサテライト設置に関しましては、令和9年、駐車場の整備がありますので、それが終わってからさせていただこうというように考えております。

【岸本会長】

分かりました。続きまして、I委員。

【I委員】

いろいろ報告を聴かせていただきまして、私は労働者団体、労働者組合の立場から考えていましたけれども、私ども製造業なんですけれども、会社の方はSGDsの観点から、ほぼほぼペーパーレス、なんでもペーパーレス、ペーパーレスということで、印刷の方はほぼしなくなり、会議の資料でもなんでもデータでパソコンを見ながらということになりますので、紙に書かれた活字に触れるというのが奇異に思っております。

一方、学校の方も見ていますと、私娘が学校の教員をやっているまして話聞いていますと、昔は各教科、教科書があってそれを持って、というところが今はもうタブレット、というふうに聞きまして、ああもう時代が変わったなと思って、聞いてましたんですけども、それを聞きましてやっぱりその小中学校、学生さんの読書活動の推進ということで司書さんを置いていただいて本に触れる機会を提供していただいているというお話がありましたので、それはそれで大事なことだと思っていますし、継続していただきたいなというふうに思っています。

私も実際にデジタルと言われている中で本を読む機会があるかなと考えたんですけども、仕事の関係でよくなんていうんですか、資格を取ったりするときに過去の問題集をどうしてもネットじゃなくて本、過去問題を紙でペラペラめくりながらやったりするのが、例えば労働者に対してセミナーをやったりするときにそういった資格関係、先程銀行関係とタイアップするところもありますし、資格とか講座とかやれば受けられることがあるのかなというふうに聞いていて思いました。

それと地域の読書環境の充実ということで、私は恥ずかしながら図書館のサテライト機能というものをこの場で初めて聞きました。全く知りませんでした。労働者の中でも多分全然知らないと思います。これを機会に労働者の福祉協議会、各いろんな企

業さんの集まりがありますし、そういうところで幹事会とかやっていますので、紹介できたらなと思っています。今後とも情報をいただけたらと思いますので、よろしくお願いします。

【岸本会長】

ありがとうございます。続きまして、J委員。

【J委員】

御報告ありがとうございます。私が報告の中で一番気になったのは、職業柄というかF委員と同じ26人のうち16人が、続きが行えなかったというところなんですけれども、読み聞かせボランティアの活動・活躍の場みたいなのをどんどん広げていくというのは一つあるし、それを見据えながらの育成と思っています。その中で結構あるんじゃないかなと実は思っています。

私もいろいろなまちづくり協議会さんとかからこんな人とかこんな機会とかこんな場所を探しているという御質問をよく受けますし、たとえば病院の中で入院を余儀なくされている子どもたちに読み聞かせたりとか、もしかしたら高齢者の方でも楽しめるとかだったら、なんとか高齢者とかのサロンとかもあると思いますし、そういった情報をよく知っているのが私たちもそうかもしれませんけれども、社会福祉協議会さんとか草津川跡地公園マネジメント・パートナーズさんとか、そういった中間支援をやっておられるところが結構そういった依頼を受けておられるので、つながっておくと結構つながりがでてくるのかなとひとつ思っています。

さっきの20代、30代の方へのアプローチについてもあったんですけども、冒頭の御挨拶の中で、いろいろな団体さんに助成をさせていただいて、やらせてもらっている中で、結構、とびら文庫さんでも、たくさんいわゆる本好きさんが集まっておられますし、しかもその20代、30代の方も結構きておられるし、私たちが直接支援させていただいた人でも、本の活動をやっているのは20代、30代なので、その人たちで、考えてもらえたらいいと思っていて、無責任な言い方に聞こえるかもしれませんが、本の好きな人たちに自分たちの世代の人はどうやって届けられる、考える機会をつくるという方が、私はいんじゃないかと実は思っていて、前の会議で図書館の負担がどんどん増えるというのはどうなのかと思っていたので、本好きな人たちと一緒に考える機会をつくって、そのアイデアをサポートしてあげるといふか、そっちの方がなんかいいんじゃないかと思ったりします。

質問が一点あって、報告の中で未就学児の読書活動の推進で、実績値があって、参加者数のデータというのがあるんですけども、これの内訳をみていると図書館への依頼事業が令和6年度の30件から令和7年度の669件とあって、これはすごいなと思っているんですけども、どういったことで増えているのかなと思っているんですが、これが質問です。

【大西副館長】

御質問ありがとうございます。図書館への依頼事業では、こども園等からの御依頼で子どもたちへの読み聞かせだけではなく保護者の方に対しても読み聞かせをすることの大切さのお話をさせていただく、講話の機会も多くいただきました。そこへ参加していただいた人数がかなり多かったため、図書館への依頼事業の実績値が大幅にアップし

ました。

【J委員】

ありがとうございます。先程絵本の読み聞かせという話で「絵本の読み聞かせはこども向け」というイメージがあるんですけども、ちょっと聞いた話によると、先程入院されている高齢者の方、いわゆる読書ボランティアというか新聞を読み聞かせるというか、普通の本を読み聞かせるというボランティアで、社会との窓ということにつながり喜ばれるというか。そういうような読み聞かせボランティアとは違うかもしれないんですけども、そういうボランティアの方。大人の方に向けて本を紹介される方みたいなのところも結構ニーズが高いんじゃないかなというところですよ。以上です。

【岸本会長】

高齢者向けの紙芝居とかもありますよね。あと今若い人たち、ヤングアダルトサービス、若い人世代が図書館で主体的に活動できるような場をつくるというのは、一つ方法かもしれません。アイデアかなと思いました。続きまして、K委員。

【K委員】

たくさん御報告ありがとうございました。いろいろ思うところもあるんですけども。私がしている「とびら文庫」には、20代から80代まで100人以上の方が出入りされていて、一度来られたら30分から1時間ぐらい居られて、本を見たりいろいろ喋っていかれるんですけども、市民レベルの疑問というか、意見というか、そういうものを拝聴させていただく機会がめちゃくちゃ多いんです。失礼な発言になるかもしれないんですけどもお許しください。

全部で5つ、まず発信力なんですけれども、昨日の時点で図書館のフォロワー数は736人でしたが、これは、めちゃくちゃ少ないと私的には思います。普通のお店とかやられていたら1年くらいで千人とか二千人ぐらいが普通なんで、これはもっとフォロワー数を増やさないと、20代、30代はSNSしか見ないんでダメだと思います。『広報くさつ』も入らないし、そもそもうちの近所のマンションは『広報くさつ』が配られていません。マンション自治会しかありませんし、皆さんそうおっしゃってました。

あと、読書のまち草津についても、先程おっしゃったように9割以上の方がご存じなかったです。駅に横断幕を貼るとかノボリを立てるとか、そういうアナログな方法なのかも知れませんが、考えてSNSのフォロワー数をいろんな手段を使って増やしてほしいこと。スーパーマーケットって誰でも行くじゃないですか。「とびら文庫」をお客さんがどこで知ったというので、全然知らないで、つながりなしでぽっと来られる人で一番多いのは平和堂とかフレンドマートに貼っていただいたチラシを見てきましたっていう方。荷物詰めるところに貼ってあるんですよ。それが一番多いんですよ。だからどんな暮らし方されてる人もスーパーマーケットは行かれると思うんで、スーパーとか銀行とか駅とか、もっと周知をお願いしたいと思います。

それから長いこと高校の教員をしていた関係で高校生のことなんですけど、これね、読書スキルなんです。千本ノックって呼んでたんですけど。とにかく読まないで読む力は絶対に上がらないんですよ。だから強制的に読む時間を取ってもらって経験を蓄積していかないと無理なんで。だから今でも草津東高校でやっておられると思うん

ですけど、全員同じ本を強制的に学年ごとに買わせて全員で読むんですよ、全員。担任の先生も。そして宿題であるとか、課題を出させるとか。今どき、感想文なんか出させません。話し合いをさせるとか、そういうのを強制的にやるしかない。そしたら読書ゼロとかいないですよ。だから数値を上げようと思ったらいくらでも方法はある。そしてどんどん積み重なっているうちに読解力が上がる。今の共通テスト、ものすごい文字数ですから、急にやっても絶対無理です。よろしくお願いします。

それから3点目、朗読ボランティアですけど、読み聞かせボランティア養成講座を受講したものの、活動につながらなかった16人のうちの一人がいつも来ておられる常連さんです。彼女が朗読の勉強がしたいということで行っておられて、全然ボランティア行くつもりは最初からない人でした。しかもお仕事してるし、早朝とか無理です。ただ、その中でおっしゃっておられたのは、個人的なラインのつながりはダメとかいわれて窮屈で、その一方的な「これいついつありますから来てくださいね」みたいなお知らせしかなくて、そうじゃなくて、個人的な朗読が好きな人たちのつながりを求めて行ったみたいなことを言われていて、よく聞くんですけど、行政の縛りがいろいろあって、草の根レベルのつながりを阻むものがあり得るんじゃないかなとか、市民の方からしたら「これはちょっと」と思うようなことがあるんじゃないかなというふうに思いました。

それから、うちでサテライトやらせてもらってすごく好評です。多分貸出とかすごく貢献していると思います。一番増やしてほしいのは大活字本です。80代後半から字が読めなくなってくるので、大活字本探しておられるんです。たとえば池井戸潤、今更ですが池井戸潤の本を探していて「守山にはこれとこれとたくさん種類があるんですが、草津には何があるの」みたいな感じで、もうものすごい向学心があります。92、3歳の方ですけども。読んだ本をメモしておられて、これはもう読んだからと言って。いっぱいおられます、そういう人。だからそういう人のニーズを拾ってほしいなと。

最後に、7月18日土曜日の屋外の本の交換会は絶対屋外じゃないとだめですか。市役所まで歩いて4～5分なんですけど、歩いて来るのがイヤでした。めちゃくちゃ暑いし、これ午後3時半までずっと付いていてくださる職員の方も大変なので、最初から2階じゃだめですか。以上です。

【二井副部長兼図書館長】

いろいろ御意見いただいてありがとうございます。まず、フォロワー数については、フォロワー数を増やせるよう職員とも協議して対応していきます。

次に、読書ボランティアの情報交換の持ち方の件については、読書ボランティア交流会を開催予定ですので、他のボランティアさんのご意見なども伺いながらより良い活動にしていきたいと思っております。

それから、大活字本についてのお尋ねですが、大活字本につきましては、草津市立図書館では開館当初から、大活字本を購入しております。最近、特に時代劇以外の小説、池井戸潤さん等の大活字本も増えております。本館と南館ともに大活字本はございます。サテライト用の本の中にもございますので、借りていただけたらと思います。

最後に本の交換会ですけども、会場が図書館の玄関前入口の屋根のあるところで行う予定です。屋外のパラソルが置いている側ではなく、屋根がついている日陰の場

所です。イベント中は玄関前の自動ドアも開放し、館内の冷房も届くようにと思っています。来館されるまでは暑くて大変かもしれませんが本の交換会には安心してお越しいただきたいと思います。

【寺西係長】

先程お聞きしました中学生の読書習慣につきましては、令和6年度のアンケート調査におきまして、まず1か月間に一度も、1冊も本を読まない生徒が4分の1いました。図書室に行かない、という生徒は4割いました。そして読まない理由が「読む時間がない」、それから「読むのが面倒」。そして「読みたい本がない」というのが上位に食い込んだ状況でございました。図書室の方へも「行く目的がない」というのも、図書室に行かない理由として生徒たちが挙げている現状があり、その課題解決のために考えたことが、おっしゃったように本に触れる、本を読む、そして図書室に行く機会をつくる、ということをお願いしたいと考えました。全中学校で、特に4～5月の学年が始まった時期での図書館オリエンテーションにより、図書室に行く機会をつくらせていただく、というところを大事にしまして、令和7年度、図書館部会や国語部会、校長会に働き掛けまして、できる限り中学生を図書室の方にオリエンテーションという形で行かせてくださいということをお願いし、学校司書・司書教諭を中心に学校全体で協力しながら実施しました。

その成果としましては、令和7年度は中学校1年生全員がオリエンテーションに参加できたという実績がございます。ただ、その中で、課題としまして、学校司書の勤務日数が週に1日ということで、やはりキャパシティの問題がございました。令和8年度は週2日の勤務となり、先程C委員からもございましたが、受け入れ態勢が整ったということで今年度はすべての中学校ですべての生徒がオリエンテーションに参加し、本を借りるという経験をできるようになっております。このことが、図書室での本の貸し出し冊数の増加という形につながっておりますが、これだけでこどもたちの読書習慣が形成されるというのはなかなか難しいですので、継続して授業の中で図書を活用する、ということこれから大事にしていくために、学校司書と司書教諭の打ち合わせを月に1回、必ず30分行うということを必須にしております。その中でどうしたら、授業の中で図書の活用が進んでいくか、というところを話し合い実施しているところです。学校司書さんの方からは、うれしい声としましては、たくさんの授業依頼がくるようになったと、聞いております。

【岸本会長】

ありがとうございました。続きまして、L委員。

【L委員】

事務局説明資料について、以下の2点を確認したいです。

1点目は、「乳幼児向け読書啓発事業の参加者数」の指標について、令和11年度の目標値が4,894人となっており、令和7年度の実績値（6,559人）を下回っています。他の指標は基本的に増加傾向となっておりますが、この目標値は所定の計算式等に基づき設定されたものなのか、あるいは別の考え方によるものなのか確認したいです。

2点目は、「地域における読書活動の充実」の拠点数の項目について、令和7年度の実績値は125か所で、目標値136か所に対して11か所下回っています。資料には、

拠点として「地域まちづくりセンター」から「読書サロン」まで13か所が示されていますが、目標の136か所のうち、実績として設置・実施に至らなかった11か所について、その内訳を確認したいです。

【山田課長】

一番最初の令和11年度の目標値の設定につきましては、今おっしゃってくださったように、どのくらいの伸び率の中で上がっていくかというのを計算させていただいて、設定段階で上げさせていただいている形でとらせていただいています。

2つめの現計画の目標値がこれなんですけれども、これについては次回の計画の目標値の設定のときに、また検討させていただきます。

【大西副館長】

2つめに御質問いただきました地域における読書環境の充実の指標のところで、団体貸出の拠点数の数値が目標値にいなかったというところの分析なんですけれども、こちらに関しては地域で活動されている、読書に関わらないようなサロン活動等の中でも、お仲間と読書活動してみませんかという働き掛けを行っていきたいというような目標があったんですけれども、なかなか周知不足で、使っていただけなかったという反省がありますので、市内の団体さんへの個別周知というのにつなげていきたいと思っております。これが要因というように分析しています。

【岸本会長】

多分この計画が令和7年度から令和11年度の5か年計画となっていますので、最終のところは令和11年度の数値が入ってくるんですね。計画の中で計画の進捗状況により、見直しを行いますという文言が入っていますので必要に応じて、またその必要があればしていただければと思います。よろしいでしょうか。では最後に、M委員。

【M委員】

普段保育の現場で2～3歳の子と関わっているんですけれども、特に乳幼児健診での啓発ですとか、絵本の交換会というところを興味深く聞かせてもらいました。私の体感として、5～6年前までのこどもたちに比べて、この2～3年のこどもたち、すごく絵本に興味をもって聞いてくれるなあというふうに感じておりして、絵本の時間になったら、ぐっと集中して聞く態勢になれるというのを感じています。っていうのは、こういったところの効果が出てきているのかなあと思っていまして、本は楽しいもの。読み聞かせしてもらおうと楽しい、という意識付けがされているんじゃないかなというふうに思います。そこはきっと保護者さんたちが頑張って本を読んでくれたり、おうちの方でも熱心にされている効果かなと思うんですけれども、やっぱり本を好きになろうと思ったら小さいときから本は楽しいものだということを意識付けすることが重要だと思いますので、こういったものだけでなくもっともっと乳幼児期に本を好きになれるきっかけづくりを、今後とも続けていってほしいなと思いました。

もう1点は先程から皆さんおっしゃっていたボランティアの育成支援ですね、私、老上小学校の方で読書、読み聞かせボランティアをしているんですけれども、なんせ人手不足です。今年度から草津市5時間プランが始まって、朝の読み聞かせの時間が昼の1時半からに変更になったんですね。それに伴って、やはり保護者の方たち、だ

いたい皆さん働かれていますので、平日の昼間の時間は空けるということが難しく、年配の方が中心となって読み聞かせをしてくださっているという状況です。なので、こういった養成された、育成の養成講座を受講された方、おそらく年配の方も多いのではないかと思いますので、そちら読み聞かせの機会として、ぜひぜひ小学校の方でも来ていただきたいなというふうに思っておりますし、やっぱり1回自分で行くっていうのはハードルが高いので、講座の最後に一度やってみましょうみたいな形で、この半ば強制的に読み聞かせの場に行く、っていうことをやってもらうのがいいかなというふうに思っています。

【岸本会長】

ありがとうございます。それでは細谷副会長にまとめというか、少しお願いします。

【細谷副会長】

活発な御議論ありがとうございました。かなりざっくりとはなりますが、私が気づいたことを申し上げます。

大事な点は2点あるかと思っています。1点目はですね、この計画に対して数値目標が妥当なのか否かというところです。F委員、それからL委員から出てきた話ですが、ボランティア受講者数の母数が妥当かどうか。あるいは未就学児の読書啓発事業の在り方はこれで良いのかどうか、数値目標に対する検証の必要性があるというところがまず1点目になります。

それからもう1点はですね、むしろこちらの方が私は大事だと思ったのですが、D委員の御意見にあった「数値にでてこないところをどう改善していくかだ」という点です。

いろんな方からさまざまな御意見をいただきました。G委員からは利用者のニーズの在り方、アンケートの自由記述欄をどう読み解くか、ということ。H委員とK委員からは、そもそもこの計画自体が周知されていないという問題、市民全体として取り組んでいくという構えのところが十分ではないのではないかとということ。I委員からは、読書と学びの関係をどう位置付けるか、学びの方向性も重要な論点です。J委員からは、考える機会をつくってあげるということですね。サポーターとしての若い世代を担い手として活用するということも大きな問題提起だと感じました。

それから、C委員から出された学校司書の配属の効果の大きさというのは、私も本計画において目に見えるところで重要な部分だと感じました。ただちょっと私が気になったのは、実績値重点項目2の部分、小中学生および高校生における読書活動の推進のところ課題に上がっていたことで、指標自体は上がっている訳なんですけど、その一方で県平均に比べて依然として不読率が高いという点をどう検証するのかということです。その要因は何か、これをどう県の数値に近づけていくのか、あるいはその指標の妥当性も含めて今後どう評価するのか、といったあたりが気になりました。

【岸本会長】

最後きちんとまとめていただいてありがとうございました。今日の審議の結果を受けて、これからの計画進行に生かしていただけたと思いますのでよろしくお願いします。以上をもちまして議題における進行の方は終了とさせていただきます。それでは事務局の方にお返しいたします。

7 閉会

【事務局】

生涯学習課・山田課長より閉会告知